

2021 冬のボーナス予想調査

2021 年 11 月

公益財団法人 地方経済総合研究所

新型コロナの影響が続き、生活防衛の姿勢はなお顕著

～ 2021年冬のボーナス予想調査 ～

当研究所では第30回目となる「今冬のボーナス」についてのアンケート調査を実施した。今年も昨年に続きコロナ禍が経済に大きく影響を与えている。県内在住者のボーナス受給状況やその使い道などを明らかにし、今後の県内の消費の見通しなどを探りたい。

【調査結果の概要】

- ボーナスの増減予想：コロナ禍の影響で前年に続き減少予想
「減りそう」が30.8%に上り、過去10年間で3番目の高さ。
- ボーナスの使いみち：「貯蓄・資産運用」「生活費補填」の水準高い
「貯蓄・資産運用」56.5%（前年比▲6.6ポイント、以下p）が最も高く、次に「生活費補填」31.0%（同+2.1p）と、「買い物」26.7%（同▲4.2p）を上回った。
- 「買い物」の予定：コロナに伴う行動制限は解除されるも、買い物は減少
「買い物」への支出は26.7%（同▲4.2p）と過去10年間で最も低い割合。
- 「貯蓄・資産運用」の予定総額：「10万円超」の蓄財は微増
「貯蓄・資産運用」の意向は56.5%（同▲6.6p）と前年と比較して減少しているが、「10万円超」の支出予定は56.2%（同+2.8p）と微増。
- 「国内旅行・海外旅行」の予定：引続き近場志向が強いが首都圏も増加
県内44.3%（同+2.2p）・九州54.1%（同+9.4p）といった近場での観光が多くなって
いるが、緊急事態宣言が解除された「首都圏」（調査時点）が14.8%（同+12.2p）と伸び
た。「海外旅行」も4.8%（同+2.2p）と微増。
- ペントアップ需要は国内旅行に向き、県内消費へのインパクトは期待薄
コロナ収束後の使いみちは「買い物」が19.7%（今冬ボーナス比▲7.0p）に留まる。
「国内旅行」は38.5%（同+23.8p）と大きく伸びるが、旅行先は「県内→減少、県外→
増加」となるとみられ、県内消費へのインパクトの期待は薄い。

【調査概要】

1. 調査対象：熊本県内在住 20～50代のボーナスを支給される予定の人（世帯）
2. 調査期間：2021年10月30日～31日
3. 調査方法：調査会社登録モニターへのネット調査（調査会社：㈱マクロミル）
4. 有効回答：416人
5. 回答者の属性

（上段：人・下段％）

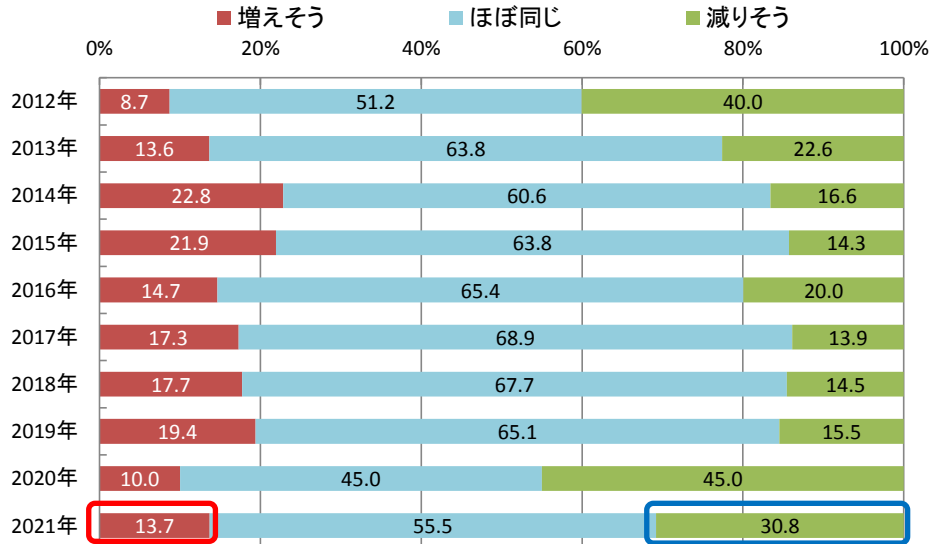
	年代					勤務先*					
	全体	20代	30代	40代	50代	公務員・独立 行政法人	経営者・役員	民間事業所・ 団体(事務系)	民間事業所・ 団体(技術系)	民間事業 所・団体 (その他)	その他
全体	416 100.0	104 25.0	104 25.0	104 25.0	104 25.0	77 18.5	12 2.9	84 20.2	120 28.8	112 26.9	11 2.6
男性	208 100.0	52 25.0	52 25.0	52 25.0	52 25.0	38 18.3	5 2.4	37 17.8	66 31.7	56 26.9	6 2.9
女性	208 100.0	52 25.0	52 25.0	52 25.0	52 25.0	39 18.8	7 3.4	47 22.6	54 26.0	56 26.9	5 2.4

*主に家計を担っている人の勤務先

1. 今年の冬のボーナス予想

- 今年の冬のボーナスは、「増えそう」が13.7%（前年比+3.7p）と改善した。一方、「減りそう」は30.8%（同▲14.2p）と、過去10年間で3番目に高かった（図表1）。
- 自由回答では、コロナ禍での勤務先の業績に関する言及が多く、支給額の増減に関わらず「支給されるだけでもありがたい」という意見が多くみられた。

図表1 ボーナスの増減予想推移



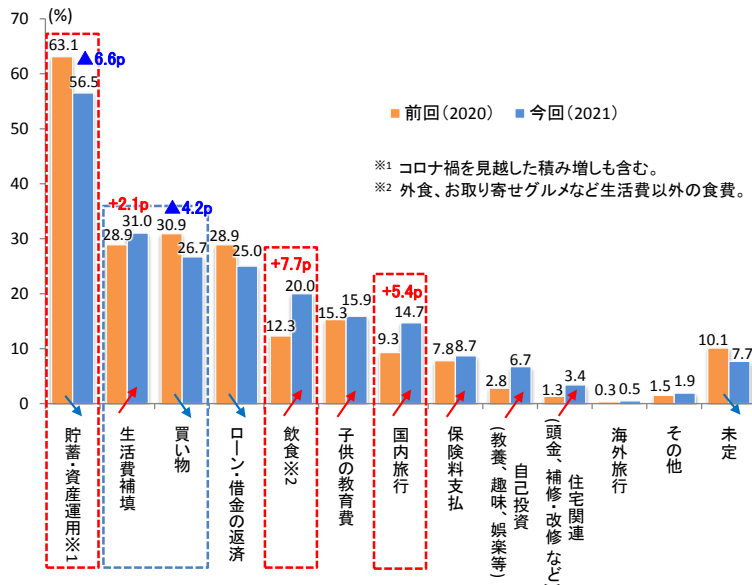
【参考】今年の冬のボーナスに関する自由回答

今年の冬のボーナス	性別・年代	職業	理由
増えそう	男性20代	会社員(技術系)	今冬はボーナスを支給されない人もいると思うので、考えながら使いたい。
	女性30代	会社員(技術系)	コロナの影響をあまり受けず、会社の業績が伸びたので。
	男性40代	会社員(その他)	とにかく貰える事がありがたいので、しっかりと計画を立てて使っていきたい。
	女性50代	専業主婦(主夫)	退職後から年金が貰えるまでの老後資金として貯えなくてはならず、無駄遣いは出来ない。
ほぼ同じ	女性20代	会社員(技術系)	このコロナ禍でもボーナスを支給していただけることは有難い。経済を回すためにも、買い物や食事、近場への旅行など積極的に消費したい。
	男性30代	会社員(事務系)	これまで同様にもらえれば御の字だと思っている。
	男性40代	会社員(事務系)	コロナ禍で経営が芳しくない企業も多い中にあり、通常の支給額であれば文句は言えない。
	女性40代	会社員(技術系)	今後の感染を考えると、娯楽に使うのは難しそう。
減りそう	女性50代	会社員(事務系)	沢山もらうわけではないが、コロナ禍の休業中でも休業補償として、会社は給料もボーナスもきちんと払ってくれてありがたかった。
	男性20代	会社員(技術系)	コロナの影響で去年のボーナスが減ってしまったので、今年は元通りでありたい。
	女性20代	会社員(その他)	コロナ禍で活動量が減り、ボーナスは下がると思うので貯蓄に回したいと思っています。
	男性30代	公務員	もらえない企業があるなか、公務員は減るといっても少しなのでありがたい。
	女性30代	会社員(事務系)	コロナ前のボーナスだと自分の楽しみに使う割合が多かったですが、これからの事を考えると今回は貯蓄と生活費補填を重点的に考える事になりそうなので少し楽しみが減っています。出来れば金額が変わらない事を願います。
	男性40代	公務員	ボーナスが減るのは仕方がないことだと思う。
	女性40代	会社員(その他)	もらえるだけありがたいと思っはいるが、どれだけ減るのが心配。普段貯蓄に回す分が少ないので、ボーナスで額を増やしている。今回は増やせないかと思うと悲しい。
女性50代	専業主婦(主夫)	確実に減額されることがわかっているので、その範囲内で慎ましくも楽しめることに少しでも使って、ストレス発散したい。	

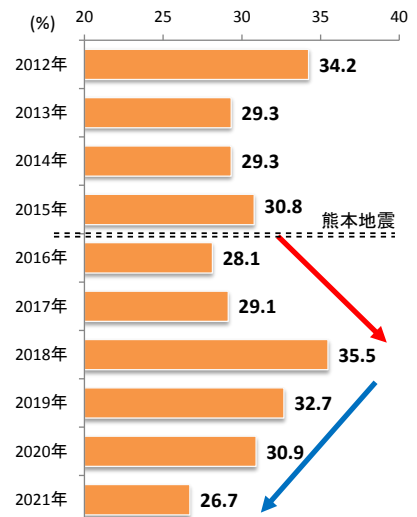
2. ボーナスの使いみち

- ボーナスの使いみちでは、「貯蓄・資産運用」が 56.5% (前年比▲6.6p) と最多。買い物は 26.7% (同▲4.2p) と直近 10 年で最も低く、生活費補填を下回った。長引くコロナ禍で生活防衛を行う様子が見え始める(図表 2)。
- 一方で、「飲食」 20.0% (同+7.7p)、国内旅行 14.7% (同+5.4p) と、コロナ禍において特に抑制されていた使いみちへの反動で支出意向が強まっている。

図表 2 ボーナスの使いみち (複数回答)

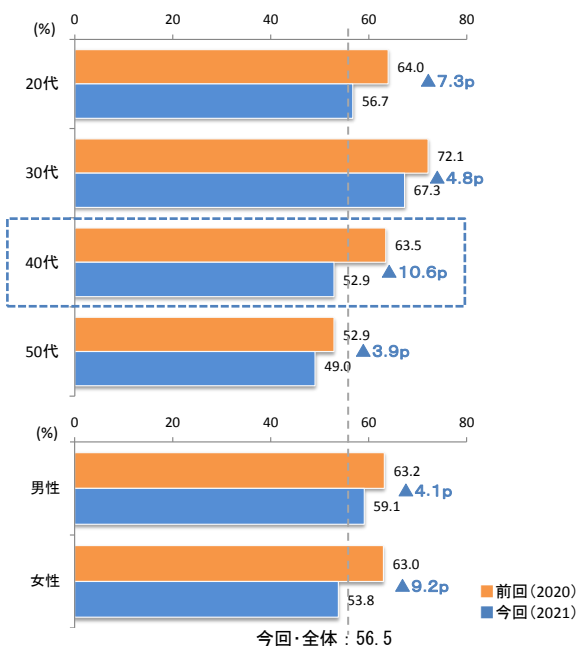


【参考】ボーナスの使いみちで「買い物」の回答の推移

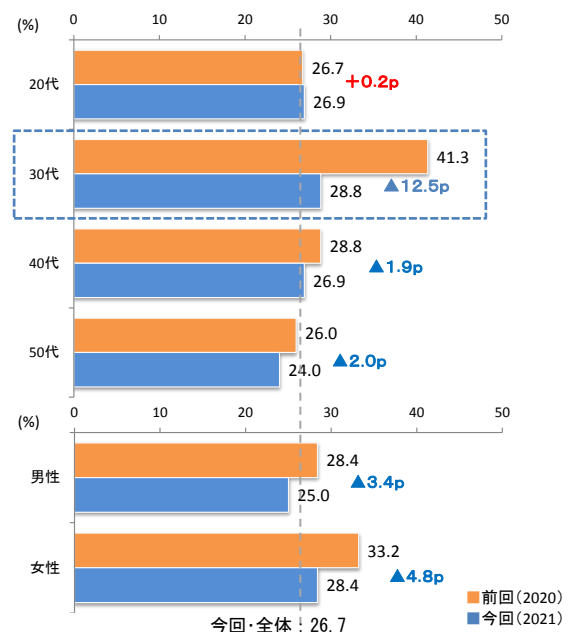


- 「貯蓄・資産運用」では、全ての年代で減少し、特に「40代」で減少幅が 10p を超えた。また、男女別では女性の減少が大きい(図表 3)。
- 「買い物」という回答では、「20代」以外の年代で前年より減少し、特に「30代」で大きく減少している(図表 4)。

図表 3 「貯蓄・資産運用」の年代別・男女別結果



図表 4 「買い物」の年代別・男女別結果

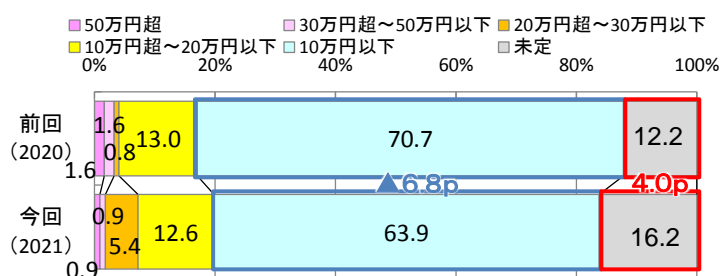


3. 「買い物」の予定

(1) 「買い物」への支出総額

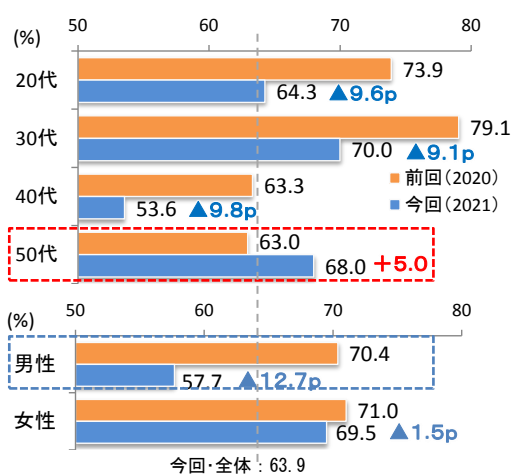
- 「買い物」と回答した人の支出総額では、最も多かったのは「10万円以下」63.9%（前年比▲6.8p）だった。また「未定」16.2%（同+4.0p）からは、コロナ禍への不安も感じられる（図表5）。
- 支出総額「10万円以下」は、年代別では20代64.3%（同▲9.6p）、30代70.0%（同▲9.1p）、40代53.6%（同▲9.8p）に対し、50代は68.0%（同+5.0p）と割合を上げた。男女別では男性が57.7%（同▲12.7p）と下げた（図表6）。

図表5 「買い物」への支出総額



図表6 買い物への支出総額が

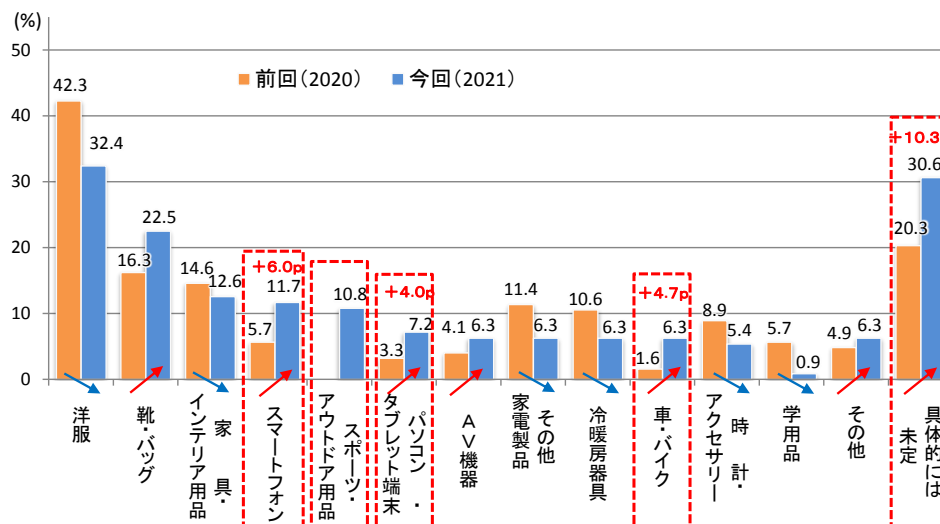
「10万円以下」の年代別結果



(2) 買う予定のもの

- 「スマートフォン」11.7%（前年比+6.0p）、「パソコン・タブレット端末」7.2%（同+4.0p）と、コロナ禍での通信環境に対する需要が増加している模様（図表7）。
- 「車・バイク」6.3%（同+4.7p）が伸び、「スポーツ・アウトドア」が10.8%（今回初調査）と全体で5番目に高いなど、アクティブな活動に関連するものが選ばれた。
- 「具体的には未定」が30.6%（同+10.3p）と、漠然とした購買意欲が伸びている。

図表7 買う予定のもの

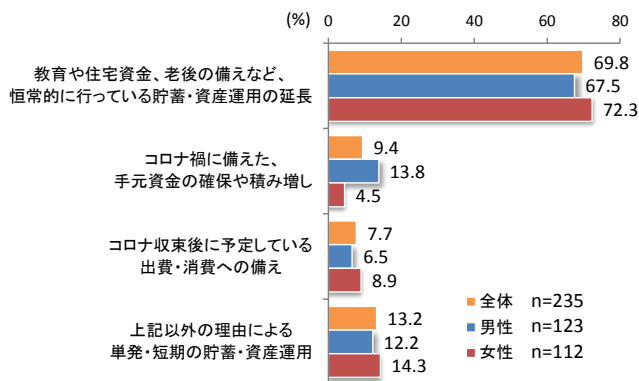
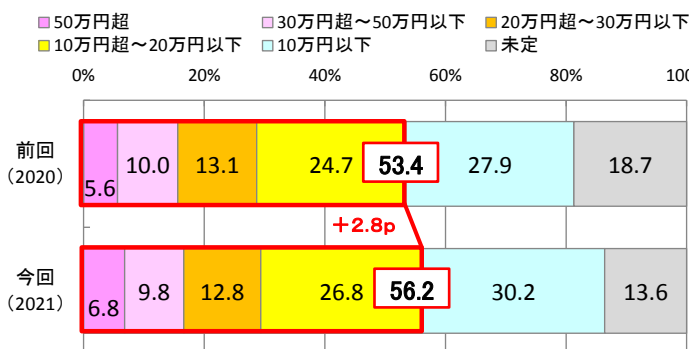


4. 「貯蓄・資産運用」の予定

- 「貯蓄・資産運用」の予定総額では、「10万円超」は合計56.2%（前年比+2.8p）と微増（図表8）。
- 貯蓄・資産運用資金は「恒常的に行っている貯蓄・資産運用の延長」の69.8%に対し、「コロナ収束後に予定している出費・消費への備え」は7.7%と低い（図表9）。

図表8 貯蓄・資産運用の予定総額

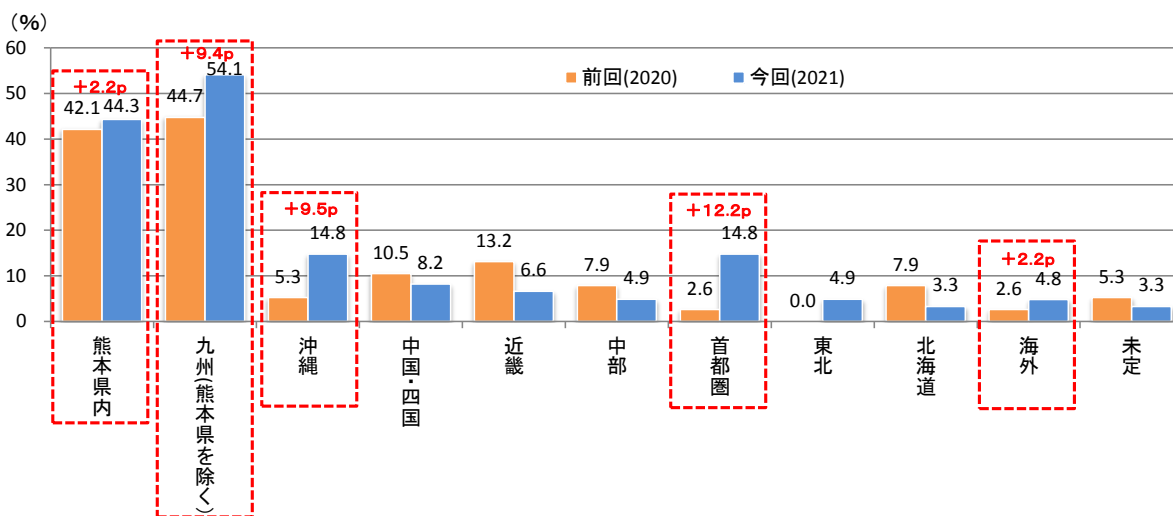
図表9 貯蓄・資産運用資金の使途・目的



5. 「国内旅行・海外旅行」の予定

- コロナ禍の移動制限が解除されたが（10月調査時点）、旅行先としては引き続き近場志向が強く、特に「九州（熊本県を除く）」で54.1%（前年比+9.4p）となっている。県民向けに5,000円の宿泊費補助もあり、「熊本県内」は44.3%（同+2.2p）と高い（図表10）。
- 国内では緊急事態宣言など制限が長期に及んだ「沖縄」と「首都圏」が伸び、それぞれ14.8%となった。一方で、海外は4.8%（同+2.2p）と伸びは小さく、選ばれる割合は低い。

図表10 旅行先として予定している場所（複数回答）

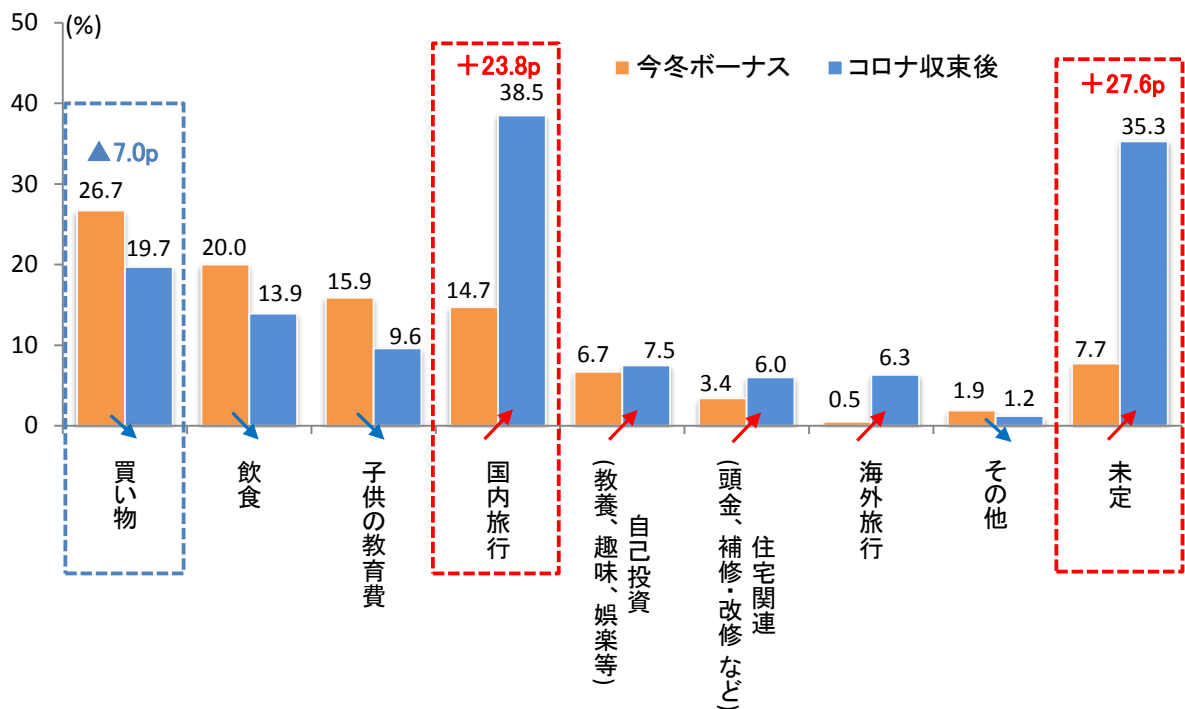


6. ペントアップ需要の状況

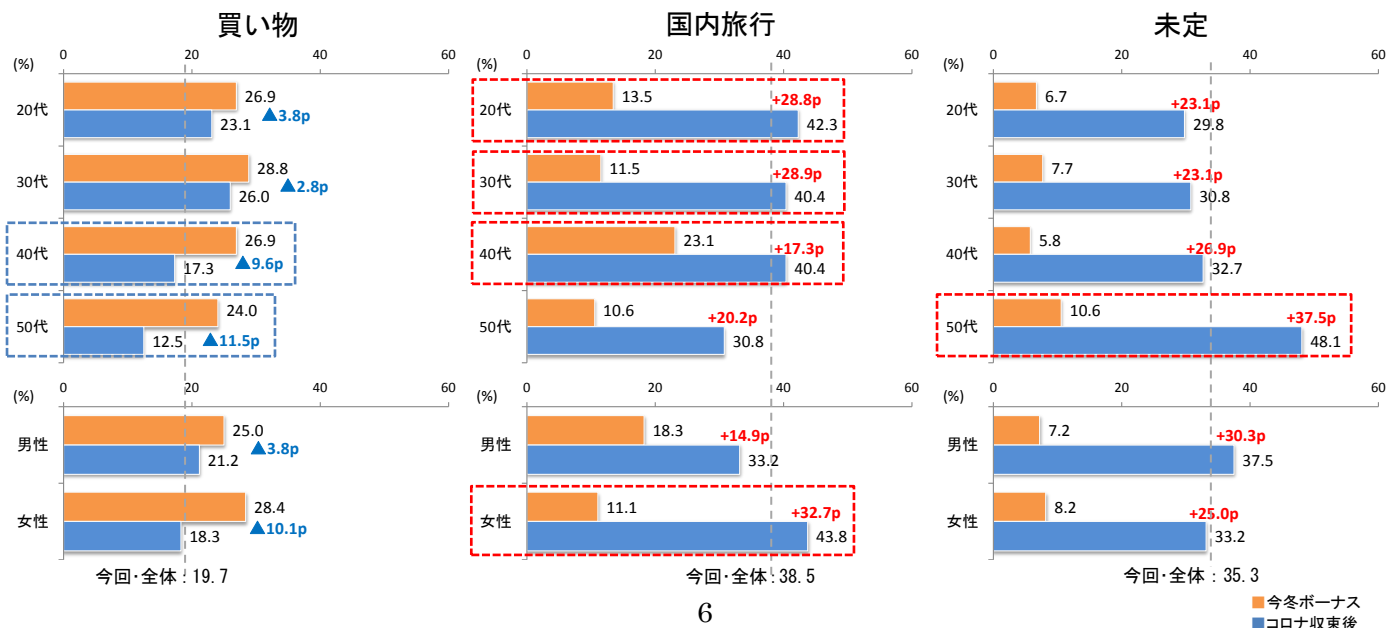
(1) コロナ収束後に計画している支出

- コロナ収束後に計画している消費としては、「国内旅行」が 38.5%と、今冬ボーナスと比べ(以下、今冬比)2 倍以上の需要がある(図表 11)。年代別では「20 代」「30 代」「40 代」で割合が 40%を上回り、男女別では女性の伸び率が高い(図表 12)。
- 「買い物」は 19.7%(今冬比▲7.0p)と低下(図表 11)。年代別では「40 代」17.3%(同▲9.6p)、「50 代」12.5%(同▲11.5p)で低下の割合が大きい(図表 12)。
- また、「国内旅行」に次いで「未定」が 35.3%と高く(図表 11)、年代別では 50 代が 48.1%と、他の年代より 15p 以上高い割合となっている(図表 12)。

図表 11 コロナ収束後に計画している支出



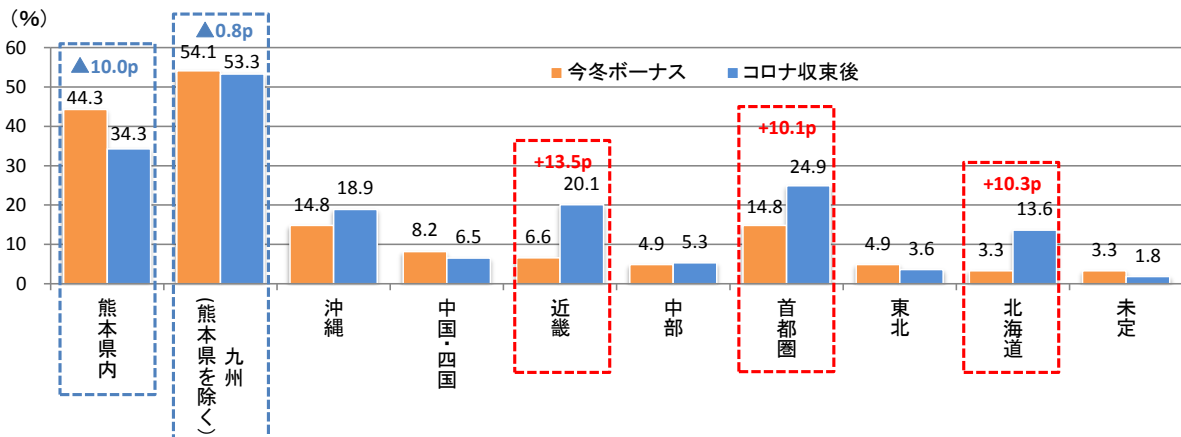
図表 12 コロナ収束後に計画している消費支出上位項目の年代別・男女別比較



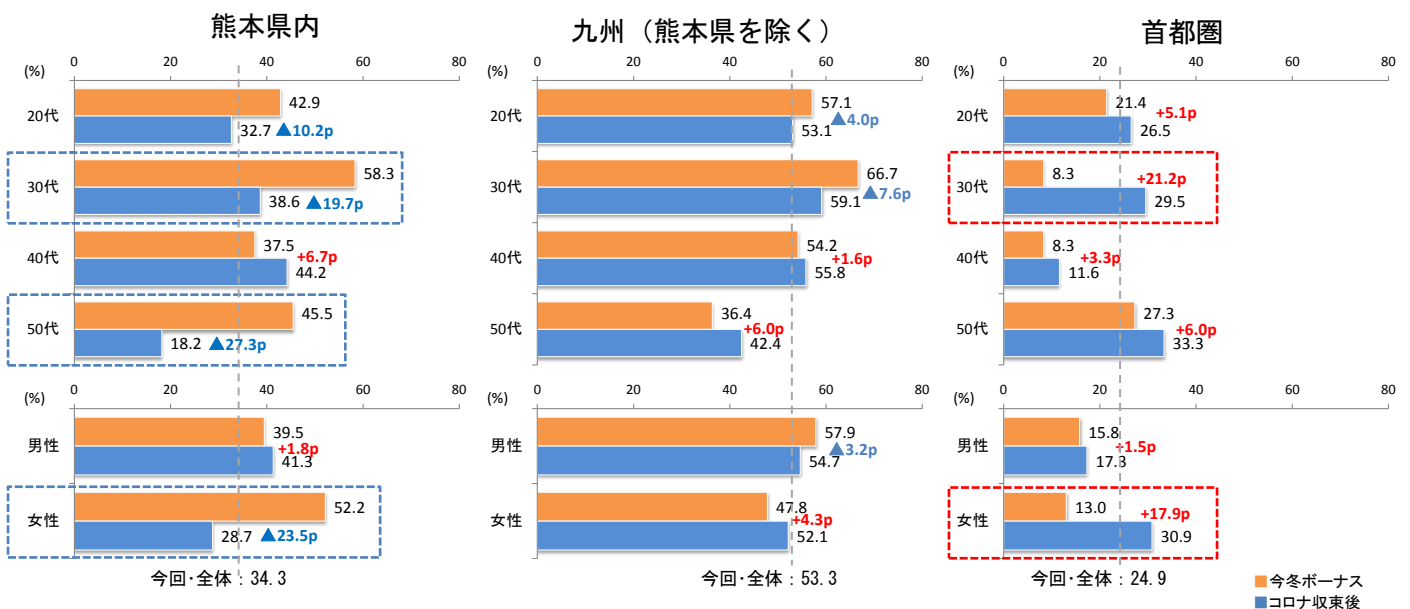
(2) コロナ収束後の旅行需要

- 旅行需要は、今冬と比べて「熊本県内」は低下するものの「九州」の需要は依然として高い。「首都圏」24.9%（今冬比+10.1p）、「近畿」20.1%（同+13.5p）、「北海道」13.6%（同+10.3p）と、緊急事態宣言等で制限が大きかった地域の伸びが大きい（図表 13）。
- 「熊本県内」は、年代別では「50代」18.2%（同▲27.3p）、「30代」38.6%（同▲19.7p）、男女別では「女性」28.7%（同▲23.5p）と減少幅が大きい（図表 14）。
- 一方で、「首都圏」は「30代」29.5%（同+21.2p）と「女性」30.9%（同+17.9p）で伸びが大きくなっている。

図表 13 コロナ収束後に計画している旅行の目的地



図表 14 コロナ収束後に計画している旅行の目的地上位の年代別・男女別比較

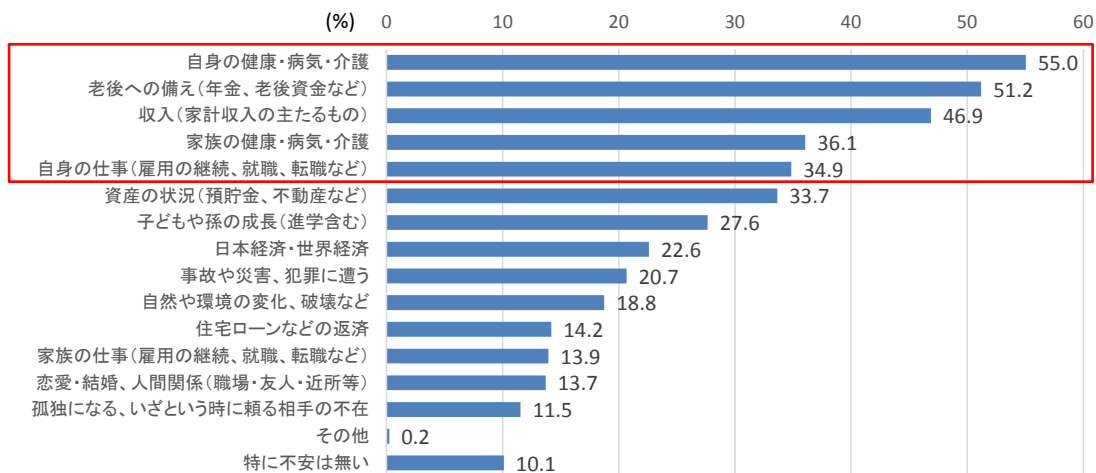


7. 将来に対する不安

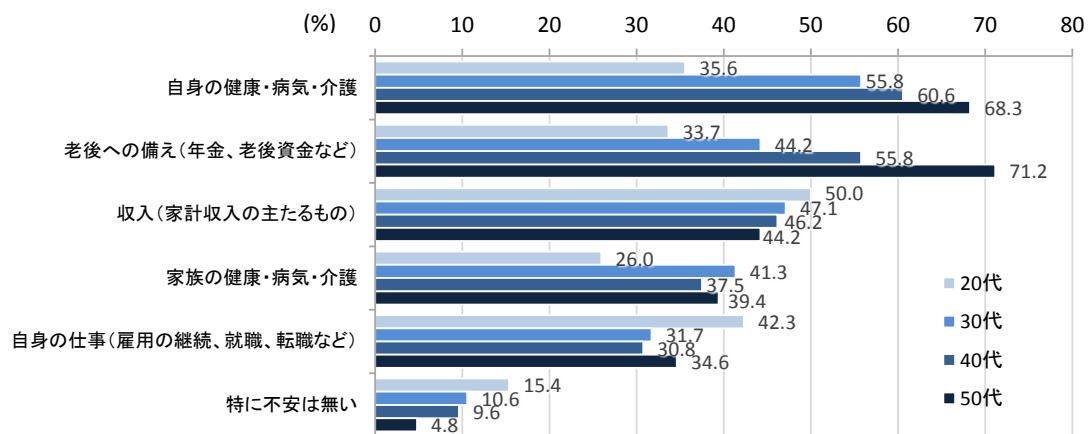
今回の調査では、コロナ収束後の消費動向の分析に際して、将来に対する不安について尋ねた。

- 将来に対する不安は、「自身の健康・病気・介護」「老後への備え」「収入」が、「家族の健康・病気・介護」以降より 10p 以上高い割合となっている（図表 15）。
- 年代別にみると、「自身の健康・病気・介護」「老後への備え」では年齢が上がるほど割合が上昇している。「収入」「自身の仕事」では「20 代」が最も高くなっており、若い世代に雇用への不安がみられる（図表 16）
- 将来に対する不安は年代毎に異なる。それぞれの不安が、冬のボーナスでの支出やコロナ収束後の支出計画に影響し、消費を思い留まらせているとみられる。

図表 15 将来に対する不安



図表 16 将来に対する不安・年代別（上位 5 項目と「特に不安は無い」）



おわりに

- コロナ禍の影響により、前回調査同様にボーナスによる消費は低調とみられる。
- ボーナスの使いみちは、行動制限の解除もあり飲食や国内旅行で微増が見込まれるが、買い物が減少し生活費補填が増加するなど、生活防衛の姿勢は顕著。
- コロナ禍収束後のペントアップ需要では、国内旅行に消費が向く。目的地としては県内が減少し県外が増加する見込み。買い物需要が減少していることもあり、県内での消費の拡大には、県外からの観光需要の取り込みが欠かせないと考えられる。